



ごあいさつ

学校法人 聖ウルスラ学院 理事長

梶田 叡一

聖ウルスラ学院英智の取り組みについて、日頃から暖かいご理解とご支援をいただいておりますことに、まずもって深く感謝いたします。

本学院の基本的な願いは、一人ひとりの子どもが豊かな個性を持つしっかりした人間として成長していくことです。この目標に向け、広範な学力を着実な形で身につける(学力保障)と同時に、充実した幸せな人生を歩んでいくための人間的基盤をつくる(成長保障)ことを目指し、教職員一丸となって努力しています。本学院は、こうした人間教育の一大拠点となるべく今後も全力で取り組んでいきたいと思います。

本学院の建学の理念は、キリスト教的伝統にあります。ヘブライイズム(ユダヤ教的伝統)とヘレニズム(古代ギリシャ的伝統)を土台に発展してきたキリスト教は、イエスのメッセージに応え、神の前における個々人の平等と隣人愛、そして無私の精神を実践しようと努めます。またこれと同時に、知性と理性の耕しを、それによって身につく英智を、人間性の基本にかかわるものとして大事にします。さらに本学院は、一本杉キャンパスが仙台伊達家の御屋敷の跡に立地するという由緒を大切にしています。仙台の地に花開き培われてきた豊かな文化的伝統を手掛かりとしながら、我が国に古来積み重ねられてきた深い精神文化を、次の世代を担う子ども達に着実に身につけさせていきたいと願っています。

私たちは、こうしたキリスト教と日本の精神文化という伝統の上に立ち、世の中のために働く力(<我々の世界>を生きる力)も、自分自身に固有な内面世界に依拠して生きる力(<我の世界>を生きる力)も共に育つよう、日々の教育的取り組みに努めております。特に2015年は、伊達政宗公が派遣した遺欧使節団がローマ教皇に謁見して400年となるのを記念し、これからの地域社会、そして日本を担っていく若者達〔若き未来の国際人〕と、カトリック仙台教区の司教様、現在の伊達家ご当主様、他46名が、バチカンに向い世界平和を祈りつつフランシスコ第266代ローマ教皇に謁見する旅—『明日への希望』(宮城県・仙台市・宮城県教育委員会・仙台市教育委員会、他多くの皆様よりご後援をいただいております)という事業が実施されます。その具体の一端を本誌によりご理解いただけましたら幸いに存じます。また、事業の成果も後日ご報告させていただきます。

このような本学院の教育のあり方について、あらためて深いご理解をいただき、倍旧の暖かいご協力ご支援を賜りますよう、心からお願いいたします。

TO TO THE TO THE

ローマ教皇謁見 「明日への希望」使節団派遣にむけて

学校法人 聖ウルスラ学院 名誉顧問 仙台伊達家十八代当主

伊達 泰宗



慶長18年(1613)、仙台藩祖伊達政宗公は慶長遣欧使節をローマ教皇とスペイン王の許に派遣しています。この事績は我が国最初の公式外交使節として知られ、平成23年(2013)、日本とスペインとの共同推薦によって慶長遣欧使節関係資料97点が世界記憶遺産に登録されました。昨年3月7日、このことを記念して、学校法人聖ウルスラ学院と聖ウルスラ学院英智教育実践後援会主催による文化講演会が仙台市で開催され、講師としてお招き頂きました。この時、講演の結びとした言葉こそが、この度の使節団の名称となりました「明日への希望」でした。

慶長遣欧使節の目的は、海外との通商と文化移入を目指したものと伝えられておりますが、世はキリシタン禁教そして鎖国へと向かう時勢下にあって、あえてヨーロッパへ使節団派遣を決断された政宗公の誠の目的は如何なるものだったのでしょうか。戦国の世に生きた政宗公であればこそ、天が赦してくれた残された人生を、国境や宗教といった隔たりを超えた戦なき平和な国造り実現の為に生きていこう思われたのではないでしょうか。

政宗公の最も有名な漢詩「酔余(すいよ)口号(こうごう)」にある一句『残軀天所赦 不楽是如何』(ざんくてんのゆるすところ たのしまざればこれいかん)にその答えが込められているようにも思います。

政宗公の御心である「平和への願い」を伝える為に、多くの困難を乗り越え太平洋を渡った先人の強い志に、私達は「明日への希望」を重ねあわせ、未来を担う若者たちによる使節団を再びローマ教皇の許に派遣することを進めております。

政宗公が新しい時代の到来に向け行動された御意志は、400年後の今「明日への希望」使節団へと受け継がれ、参加される皆さんは、聖ウルスラ学院英智に集う全ての児童、生徒の代表者たる自覚を持たれ臨まれます事はもとよりでありますが、新たなる歴史の一頁を自らが綴り、平和を願う世界の人々との懸け橋となっていただきたいと強く願っています。

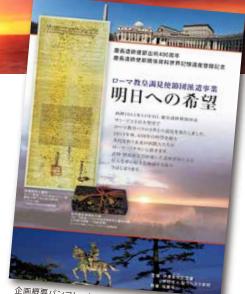
この記念事業には多くの団体、企業、個人そして旧仙台藩縁の方々からも応援を頂いております。保護者の皆様には、「明日への希望」使節派遣にあたりまして、深いご理解とお力添えを賜りますよう宜しくお願いを申し上げます。

ローマ教皇謁見使節団派遣事業 「明日への希望」 訪欧に向けた準備が本格化

〈企画実施概要〉

程/2015年11月1日(日)~11月9日(月) 9日間 訪問地/バチカン、ローマ、チヴィタヴェッキア、アッシジ

- ●バチカン ~サンピエトロ寺院、バチカン宮殿、アポストリカ図書館
- ●ローマ ~在バチカン日本国大使館、クイリナーレ宮殿、ボルゲーゼ美術館
- ●チヴィタヴェッキア ~使節団上陸の地、日本聖殉教者教会、支倉常長像
- ●アッシジ ~サンタ・マリア・デリ・アンジェリ教会、聖フランシスコ大聖堂



〈派遣団〉

若き未来の国際人[本学院生徒17名]

仙台伊達家第18代当主 伊達 恭宗 カトリック仙台司教区司教 マルチノ平賀 徹夫 学校法人聖ウルスラ学院理事長 梶田 叡一 伊達家伯記念會 仙台藩作法指南役 池田 峯公 聖ウルスラ学院英智小・中学校、高等学校の教職員代表 聖ウルスラ学院英智小・中学校、高等学校 児童・生徒の保護者 関係者

〈主 催〉

伊達家伯記念會・学校法人 聖ウルスラ学院

〈共 催〉

瑞巖寺

〈後 援〉

宮城県・仙台市・宮城県教育委員会・仙台市教育委員会 東北福祉大学•学校法人上智学院 宮城県商工会議所連合会・東北放送・仙台放送 聖ウルスラ学院英智教育研究実践後援会

〈協 賛〉

七十七銀行・株式会社 藤崎・株式会社 仙台三越

記念バッジ

「明日への希望 | 記念バッヂ公募 大賞は高校3年(尚志コース) 大友 桜月さん



いよいよ児童生徒の代表17名が 「時代を背負う未来の国際人たち」 との期待を受けてローマ教皇謁見 の旅へと出発します。その時、彼ら の胸に輝くのが「記念バッヂ |です。

このバッヂのデザインを、聖ウルス ラ学院全体から公募したところ、 15名の方からの応募があり、その 中から尚志コース3年大友桜月さ んのデザインが選ばれました。こ のバッヂは、記念事業の一環とし て、本学院に学ぶ児童生徒全員に 記念として配布されます。



特別講演会

「ローマ教皇謁見から400年 政宗公の願い |

講師 仙台伊達家十八代当主 伊達 泰宗 氏

11月の使節団派遣に向けての特別講演会を、仙台伊達家 十八代当主 伊達恭宗様を講師にお迎えして行います。

その第1部では、今年の全日本吹奏楽コンクールで2回目 の全国大会出場を果たした吹奏楽部による演奏も行われます。 NHK大河ドラマ「独眼竜政宗」のテーマをはじめとした楽 曲の演奏後、第2部でご講演をいただきます。保護者の皆様 にも児童生徒を通じてご案内を致しますので、参加希望の方 は是非お申し込みください。

会期 2015年10月2日(金) 開場13:30 開演14:00

会場 仙台市若林区文化センター ホール

内容 《第1部》吹奏楽部による演奏

《第2部》特別講演会

参加者研修会

第2回研修会開催 演題 「政宗の夢 常長の現 |

講師 宮城県慶長使節船ミユージアム館長 濱田 直嗣 氏

7月18日土曜日午後4時から、本校3号館多目的ホールに約 70人の聴講生が参加して、ご講演を拝聴いたしました。

慶長18年〈1613年〉、仙台藩主伊達政宗が家臣の支倉常長 を「慶長遺欧使節」として派遣し、その使節団がスペインを 経てローマ教皇に謁見を果たしたのは1615年でした。その後 この史実は封印され、明治新政府による遺欧使節団が初め て知った史実を、明治天皇が殊の外驚かれて「武将の中の武 将伊達政宗なり」と評価されたとの話も残ります。

伊達政宗の思いと願いは何だったのでしょうか。濱田直嗣 氏は、慶長の大津波そして政宗の思いと願いを、様々な史実

を駆使して熱く話してくださ いました。為政者政宗の偉 大さが聴講した皆の心を捉 え、「生き方・挑戦・希望・志」 様々に思いを馳せ、「明日へ の希望」がより具体化された 想いの講演でした。



ごちそうさま! そして ありがとう!が言えるまで



引き継がれるいちごの苗



花が咲いて実がつきました



ネットをかけて カラスから実を守ります



水やり・草取りは毎日のお仕事





大事に育ててきた いちごでジャム作り



いちごジャムパーティー 準備、おもてなし、人に喜んで もらうことに喜びを感じる体験



親株から伸びる子株の苗を ポットに移し、 引継ぎの準備をします 次の学年に手渡すまで、 しっかり責任を持ってお世話します





年長の姿を見てきた年中、年少の子どもたちは、 憧れの気持ちを持って次の学年へと進級していきます

思いをつないで10年

つなぐいのち、 受け継がれる みんなのわ

いちご・いのちのリレー

長く引き継がれてきた活動のひとつ、 いちごの栽培も10年がたちました。

年中組の2学期中頃、いちごの苗を年長児から引き継ぎ、 プランターに植え替えます。毎日欠かさず行う水やり、寒い 冬を越すための藁敷き、肥料やり、草取りなどをしながら生 長を見守ります。

春、年長へと進級した子どもたちは、いちごの花が咲き、 実をつけるようになると、歓声をあげながら収穫を楽しみま す。収穫の季節が終わり、葉が枯れてきても、親株から伸び る新しい命の芽を見つけ、大切にポットに移し替えて次の学 年へと引き渡す準備を始めます。こうして何年もの間、命の 引継ぎが継続して行われているのです。

いちごの お世話カレンダー

はる

- ・寒さよけに敷いていた、藁を外します
- ・花が咲く前に、栄養をあげます
- ・いちごの実を収穫します
- ・「いちごジャムパーティー」開催

(年少、年中組を招待)

なつ

- ・株作りの準備(ポットに土を入れ準備する)
- ·ランナーが出てきたら

ポットに株作りの準備をします

・子株の育ちを確認します

あき

- ・親株から切り離します
- ・今まで使っていた土に石灰を混ぜ、

土作りをします

- ・子株を、年中組に引き継ぎます
- ・子株を植えます
- ・栄養を与えます
- ・冬に備え、藁を敷きます

ふゆ

様子を観ます



子どもたちの小さな手から さらに小さな手へと 受け継がれてきた活動は、まさに宝物。 時代の変化やニーズに応え 時間をかけて少しずつ変容を遂げ 今日のウルスラ幼稚園があります。 年齢やクラスを越えたつながりを大切に 幼稚園のテーマでもある「みんなのわ」を目指して これからも幼稚園は歩み続けます。



夏はプール指導が行われ、水の苦手な子どもも、 先生の面白さに笑顔になり、水の冷たさや気持ち良 さを味わいます。プールがもっと大好きになります。



たいいく だいすき!

幼児体育研究所の先生を迎えてスタートした、 体育教室は10年が過ぎました。

元気いっぱいの先生と共に行う活動を通して、子どもたち は沢山のことを学び、身体と心の成長を促します。そして1 年を通して、様々な場面で体育に親しんでいます。

親子体操

家族参観日は、年中組の子どもたちが、親子体操 をします。お父さんお母さんと一緒に跳んだり走った りと、いっぱい身体を動かし、講堂は子どもたちの歓 声に包まれます。身体の成長のポイントを教わりなが ら、親子ともスキンシップに大満足です。



体育教室

毎週の体育の時間では、年齢に合わせて様々な活 動をします。活動を通して身体を動かすことの楽しさ や、最後まで頑張ることの大切さを学びます。先生の ユーモアにあふれた指導に子どもたちは夢中になり ます。



話も集中して聞いています

組み立て体操

秋の『うんどうかい』は、年長児が組み立て体操に 取り組みます。皆でタイミングを合わせてポーズを完 成させていく中で、力を合わせることや最後まで頑 張る心が育ちます。



運動会に向けて頑張っています

「オープンクラスト ~横のつながりを大切に~

クラスの枠を越え取り組む『オープンクラス』です。年少・年中組は 学年ごとに集まり、ゲームや歌、合奏などの様々な活動を楽しみます。

年長になると、子どもたちと話し合いの時間を持ち、3つの活動を 決めて、それぞれ自分のやりたいものを選び、グループで取り組んで いきます。

活動の内容は、劇、歌、ダンス、工作、スポーツ、マジックとその年に よって様々ですが、協力し楽しんで取り組み、3月に行われる『お別れ 会』では、活動してきたことを発表する機会が設けられています。

また、12月に行われるクリスマス会(聖劇)では、子どもたち自身が 役を選び、他のクラスの友だちと力を合わせて練習します。そしてそ の頑張る心をイエスさまヘプレゼントします。

年少・年中組は、聖歌隊として、劇中の歌を担当します。どの子ども も真剣に取り組み、当日は、園児、保護者がひとつになり、静かな雰囲 気の中で「クリスマス会」が行われます。



プ(ちぎり絵)「松島水族館」



クリスマス会(聖劇)





聖ウルスラ学院英智小・中学校で 幼小交流会が行われました!

7月13日(月)、年長組は、幼稚園と小学校の連携を目的とした活動 のひとつとして、小学校1年生と一緒に体育活動を楽しみ、交流を深 めました。

小学校の先生方に出迎えていただき、少々緊張した面持ちの園児 たちでした。その後、広く明るい体育館で待っていてくれた一年生の お兄さん、お姉さんの姿を見ると、これから始まる活動に期待し、張り 切る様子がみられました。小学生との混合チームで『ドッジビー』に チャレンジした子どもたちは、最初は1年生のダイナミックな動きに圧 倒されていたようでしたが、1年生がキャッチしたフリスビーを幼稚園 児に渡してくれたり、投げ方を教えてくれたりする小学生の優しさに 触れながら、夢中になって楽しく参加することができました。

お兄さん、お姉さんと力を合わせ、勝ったり負けたりする嬉しさや 悔しさを共有し、小学校生活への憧れの気持ちがさらに膨らんだ様 子でした。

預かり保育― 早朝保育がはじまりました!

在園児を対象に、早朝は7時30分から、そして降園後は18時30分 までの預かり保育をスタートしました。専門の教師たちによる楽しく 充実した時間は、子どもたちにも大人気!仕事などで忙しい保護者 の子育てをサポートしています。







第74回 全国教育美術展

- 平成26年度 —

地区学校賞(教育委員会賞) 受 賞

聖ウルスラ学院英智幼稚園



【特選】「運動会」 杉田 雅姫 (年長/5歳児)



【特選】「いもほり」 髙橋 星花 (年長/5歳児)



【入選】「おかあさん」 及川 瑛善(年中/4歳児)



【入選】「おかあさん」 阿部 璃音 (年長/5歳児)

第33回 みやぎ児童画展 第45回 世界児童画展 同時出展



【特選】「おかあさん」 ※世界児童画展/入選 琴 錬大(年中/4歳児)



【特選】「おかあさん」 ※世界児童画展/入選 小野寺 尚(年中/4歳児)



【入選】「おとうさん」 中野 奈央(年少/3歳児)



【入選】「おとうさん」 松田 喜花 (年少/3歳児)



【入選】「おかあさん」 飯田 彬舜(年中/4歳児)



【入選】「おとうさん」 村上 政敬(年中/4歳児)

心と体の発達に応じたステージ行事

1stステージ運動会

Fステージ1年生から4年生だけでの運動会。その運動会の 行事をまとめるのは3・4年生です。自分たちで、道具の準備をし たり、アナウンスをしたり、低学年を集合させたりと運動会の日 は大忙しです。でも、これが子どもたちをぐんと大きく成長させ てくれます。3・4年生を見習って1・2年生も自分の競技に演技に 応援に頑張ります。また、毎年出演してくれている聖ウルスラ学 院英智幼稚園も元気いっぱいダンスを披露してくれました。





三社祭参加

3・4年生は、今年も一番町のアーケードで、元気いっぱいに すずめ踊りを踊りました。

揃いのはっぴにねじりはちまき、そして手作りのせんすを 持って踊る姿は、いつにもまして堂々としていました。見てくだ さった方々から大きな拍手をもらい、子どもたちはとてもうれし そうでした。このような活動を通して、地域の方々との関わりも 大切にしています。





ステージ行事最後の締めくくりは、心新たに誓いを立てます

二分の一成人式・進級認定証授与式

4年生は2月に二分の一成人式ならびに進級認定証授与式 を行います。子どもたちはこれまでの成長に感謝し、セカンド ステージでもがんばるぞという決心をします。いわば、ファー ストステージの卒業式です。進級認定証と、進級の記念とし て聖書と制帽を校長先生からいただきました。





知的好奇心をかき立てる多彩な体験学習プログラム

1・2年生 泉ヶ岳

自然探索《1泊2日》

天気が心配されましたが、泉ヶ岳の大 自然の中で2日間けがもなく元気に過 ごすことができました。2年生の班長を 中心に子どもたちが力を合わせて活動 し、学年をこえて交流の輪が広がったこ とも嬉しい収穫でした。





3年生 山形·金山

農業・林業体験《2泊3日》

3年生の宿泊学習は、山形県の北部、 金山町で行います。金山町は林業と農 業が盛んな地域で、豊かな自然を生か した体験をします。また本校と同じユネ スコスクール認定校の新庄小学校の児 童と、発表を通した交流も行います。





4年生

安比高原

リーダー宿泊研修《2泊3日》

4年生は、同じステージリーダーであ る7年生と共にリーダー宿泊研修を行い ます。雪山でスキーに挑戦する中で気 力・体力を養いながら、リーダーとして の資質やグループ活動についての考え 方を身につけていきます。





心と体の発達に応じたステージ行事

2ndステージ運動会

2ndステージ運動会では、5年生から7年生が縦割りで チームを組み、各競技の勝敗を競います。7年生のリーダー シップのもと競技の練習を重ねる中で、ステージ内での団結 を深めていきます。





合唱コンクール

セカンドステージ合唱コンクールはクラス対抗で行われます。 指揮者・パートリーダーを中心に話し合いながら練習に励み、 クラスの団結力を高めることができます。毎年、どのクラスも一 人一人が精一杯声を出し、各クラスの個性あふれる合唱をホー ルいっぱいに響かせます。





ステージ行事最後の締めくくりは、心新たに誓いを立てます

立志式・進級認定証授与式

立志式はセカンドステージ修了の式 です。生徒一人ひとりが今までのこと を振り返り、将来の夢やサードステー ジですべきことを真剣に考え、「立志 録 | や言葉で表明します。神父さまか ら祝福を受け、これからの歩みが祝福 されるように皆で祈ります。







知的好奇心をかき立てる多彩な体験学習プログラム

5年生》秋田·男鹿

地域に根差した文化体験《2泊3日》

秋田県・男鹿地方を中心に、2泊3日で歴 史・文化・産業を学びます。秋田の伝統的 な行事の「なまはげ」や「竿灯祭り」の体験 をしたり、「稲刈り」の体験をさせて頂い たりします。また、大潟村の「八郎潟干拓」 の歴史と現在の農業の様子や秋田の食文 化なども学んでいきます。





6年生 Global Camp

生きた英語体験《2泊3日》

外国人留学生たちと、2泊3日の英語 漬けのグローバルキャンプを行います。 それまで学習してきた英語の力を駆使 して、留学生たちと様々なプログラムを 行うことで、英語でのコミュニケーショ ン能力を鍛えます。





7年生 安比高原

リーダー宿泊研修《2泊3日》

7年生は、Sステージ最上級生として、 同じくFステージ最上級生の4年生と共 に、岩手の厳しい自然の中でリーダー宿 泊研修を行います。スキー体験、宿泊先 での研修を経てステージリーダーとして の役割を学びます。





コース行事

「Type1コースクラス【安比高原/野外活動】

特別志学コースType1の生徒たちにとって、机の上では味わ えない活動をするのが野外活動です。普段は己と戦う彼らに とって、学年、クラスの垣根を越えての活動は、お互いの距離を 縮めるよい機会となっています。





Type2コースクラス【体育祭】

高校生と活動を共にします。普段とは違った雰囲気の中で、 先輩方と一緒に活動できる数少ない行事の一つです。様々な 種目を通して、クラスが一つになることができ、最後はみんな笑 顔で終わることができます。





志の実現へ向かって新たなステージへ!

卒業証書授与式

3月8日、聖ウルスラ学院英智小・中学校卒業証書授与式が行われ、大勢の保護 者や教職員、在校生が見守る中、71名の卒業生が高校へ巣立っていきました。卒 業生一人一人が登壇し、校長から卒業証書を受け取ったときに言った「ありがと うございます | の言葉には、それまで一生懸命努力し学校生活を送ってきたこと に対する誇りと自信が満ち溢れていました。ろうそくの光につつまれて退場する 卒業生の凛とした姿に多くの保護者や教職員が感銘を受けていました。



知的好奇心をかき立てる多彩な体験学習プログラム

8年生 久慈市

自然体験《2泊3日》

8年生は岩手県久慈市で2泊3日の宿 泊体験学習を行いました。今回は久慈 市の自然に触れるプログラムとして、カ ヌー体験をしたり、琥珀を採掘したりと 久慈市ならではの経験をしました。ま た、民泊体験では普段の生活とは大き く異なる環境で多くのことを学び、成長 することができました。





9年生 オーストラリア・ケアンズ

ホームステイ・語学研修《1週間》

10月中旬、オーストラリアのケアンズ で語学研修をします。ホームステイを通 し、異文化を体験します。学校間交流で は、現地校の生徒と交流し、英語で日本 についてのプレゼンテーションをしま す。また、グレートバリアリーフの美しい 海でのシュノーケリングは忘れられない 思い出になります。英語力もアップし、自 己成長できる貴重な体験ができます。







鹿野

今年度より新たに「ニュージーランド中期 留学」を9年生対象に立ち上げます。これ は、6年生のサマーキャンプ、9年生のケアン ズ研修旅行を経た子どもたちのために、国 際交流に留まらない「グローバルリーダー 育成」のための企画です。今回の5日間の現 地クライストチャーチ視察で、この企画が 充実したものになると確信が持てました。



文部科学省推進事業

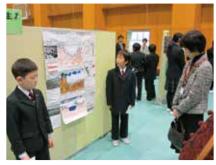
平成27年度

「課題解決に向けた主体的·協働的な学びの推進事業」における 「言語活動の充実に関する実践研究」スタート!!

本校は10年間のことばの教育の成果を活かし、さらに「他者と協働して思考を深める力」「創造的かつ豊かな表現活動をする力」の育成を目指す研究計画を立案し、文部科学省が示す推進事業の実践委託校として認定されました。この実践で児童生徒が主体的に課題に向き合い、仲間と意見を出し合いながらより良いものを創造していく力を導き出したいと考えています。学習のまとめとしてプレゼンテーション、ポスターセッションの発表を行い、他者にわかりやすく興味を持って聞いてもらえるような表現活動の充実も目指します。ことばの力を土台とした小・中9年間の一貫した学びが、21世紀を生き抜く子どもたちの真の力となるよう研究に取り組んでまいります。









みんな大好き!

Media Center x + 17 to 29.

朝・昼・放課後、どの時間でもメディアセンターは本を借りに来る人で賑わっています。「オススメの本を教えてください!」と聞きに来る人もいれば、「これおもしろいよ」と友たちに教えてあげて好きな本をみんなで共有していたり、それぞれ自分なりのメディアセンターの使い方を見つけているようです。

また、長期休み前になると張り出される「個人別貸出ランキング」に自分や 友達の名前を見つけて喜んでいる姿もよく見られました。たくさん読んでいく うちに、自分がどんな本が好きなのかが分かってきた、という人もずいぶんと 増えてきました。









A Whole World Awaits You.

聖ウルスラ学院英智高等学校の国際理解教育

聖ウルスラ学院英智では、長年にわたって国際的な動きを活発に行ってきています。近年の社会の キーワードである「グローバル化」の流れにもしっかりと乗り、また新たな動きを導入し、より生徒一 人一人の「志」を実現すべく努力しています。

環太平洋地域の中の一員としての日本を牽引するグローバルリーダーの育成 (1)目的

(2)目標 環太平洋地域の一員としての日本が果たすべき役割を認識するために、現状を 分析し、20年後を見据えた形で何が必要になるのかを探求させた上で、それぞれ 個として日本、そして環太平洋地域に今、何ができるかを具現化させる。

国際理解委員会のアクション

環太平洋地域の一員としての日本が果たすべき役割の認識

本校全コースに付く「志」という名称が示す通り、 あらゆることに知的好奇心を持ち、 自らを高めその「智」を社会へ還元する姿勢を グローバルという視点から改めて認識させる

校内

GH(グローバルハイスクール) Action Team

- ◆言語教育
- ◆複言語教育
- ◆作法教育
- ◆カトリック教会
- ・聖ウルスラ修道会との連携 ◆国際理解週間・講演会の展開

など

協同

校外 対外組織における教育プログラム

- ◆コリブリネットワームを使った留学
- ◆環太平洋地域Science Festival
- ◆東北福祉大学高大連携授業
- ◆明治大学フランス語高大連携
- ◆各種スピーチ・スキット(スケッチ)コンテスト
- ◆Sumerica TVなど企業との連携
- ◆文藻外語大学との高大連携教育
- ◆ロータリー・AFSなどとの連携
- ◆姉妹校短期・長期留学プログラム

協同プログラムの開発

- I. 環太平洋地域 Science Festival 参加
- Ⅱ. 北米Los Angeles地区日系企業インターン&語学研修
- Ⅲ. 高雄·文藻外語大学·花蓮·海星高級中學との連携研修



環太平洋地域との交流の深化・拡大



グローバルリーダーの育成

異文化理解の深化

環太平洋地域を意識した協同・共生のための視点・姿勢の再構築 各自の研究テーマと社会への還元に向けたアクション

フィードバック

各種留学プログラム・国際理解関連行事の様子





留学生の帰国を見送るクラスメイト



留学生によるスペイン語の"特別授業"

0000000 特別志学コース Typel

10期生を出したType1の今

この春10期生が卒業したType1ですが、多くの卒業生が学校に来 てくれます。大学生や社会人として与えられた場で一生懸命励んでい る彼らの近況報告を聞くのは、私たちにとっても嬉しいものです。ま た、様々な学校行事やコース行事に協力することを通して後輩に送っ てくれるエールやメッセージは、がんばっている在校生や先生方のエ ネルギーとなっています。そしてそれは、よりよい高校生活を過ごして ほしいという祈りのようにも思えます。

さて、今年は高校2年生の代表生徒が主体となってコース行事を運 営しています。これまでは先生方に頼っていた部分もあった生徒たち も、自分たちで試行錯誤し段取りを考え、中学・高校生の5学年の幅 広い学年層をまとめ、より良いものにしようと日々勉強の合間をぬって 取り組んでいます。

Typelコース長 鎌田

首都圏大学に通う 卒業生が 大学見学研修会を





現役東北大学生の 出前授業





代表生徒主体の ·球技大会(左) ·対面式(右)





6666666 特別志学コース Type2

志を持ち、仲間と共に、未来を自分の予想を超えたものへ!

Type2コースでは、今年度もあらゆることに全力で取り組む生徒た ちが活躍しています。

4月には「受験サプリ」特別講義を受け、東北福祉大学との高大連 携授業も順調に回を重ねています。東京の大学見学研修には多くの 卒業生が駆けつけ、後輩へのアドバイスをくれました。後輩のために それぞれの場に10人以上の卒業生たちが駆けつけることに、どの大 学の先生方も驚かれます。

Type2を誇りに思い行動する卒業生たちの姿に、在校生も負けじと 活躍します。多くの留学プログラムに積極的に参加し、それぞれの立 場での「リーダー」として全力でぶつかっています。球技大会では、3年 生が中心となりコース全体を一つにまとめる姿がありました。高校時 代を勉強にも部活動にも国際交流にも、何にでも真摯に向き合う生徒 たち。これからも益々活躍します!

> Type2コース長 内海 知子









尚志 コース

現代社会を生きる若者へ

尚志コースが設定する三本柱は、高校時代に身につけてほしい将 来に向けての3つの力です。部活動を通して人間関係力や生活力を養 い、英語力を意識した学習が国際化した社会と日本の立場・役割を思 考することにつながります。また、仙台藩作法を学ぶことで、人として 生きる倫理観を意識することができます。生徒がこの3つの力を身に つけることが、広い現代社会で生きる力につながると考えています。

現代の若者の弱点に、身にふりかかる様々な問題に対しての耐性不 足があります。自分の力が試される機会での負けない強さは、失敗体 験を重ね、立ち上がり、次に向かうことで身につくのです。また、若者 が将来への希望を持つには、学力の向上や友人関係の安定、部活動 での目標達成、努力の後の資格取得など、成功体験の積み重ねが必 要です。新しい時代に向けて我々自身も試行錯誤を繰り返しながら、 教育現場で対応していきたいと考えています。

尚志コース長 太田 和幸







球技大会



バレーボール部

3年ぶりの全国の舞台! 貴重な経験ができました!

尚志コース 3年 早坂 栞

私たちバレーボール部は、昨年秋の東北大会の結果により、今年3月に開催された全国大会「さくらバレー」に、3年ぶりで出場することができました。そして、その全国大会では、ウルスラ伝統の速攻バレーで、九州ブロック代表校を破って一勝を挙げることもできました。例年に比べて、なかなか思うような結果が残せずに苦しんできた今のチームにとって、この経験は、またとない向上の機会となりました。さらに、『月刊バレーボール』誌上の「さくらバレー特集」で、「気になる注目校」のひとつとして紹介されるというおまけ付きでした。この記事では、コートの外での普段の生活をいかにきっちり過ごすのかを大切にしている私たちバレーボール部の姿勢も紹介されており、更に上位で活躍できる立派なチームとなっていくためにも、今まで以上に「日

常生活で勝負する」姿勢を大切にしていきたいと思っています。





サッ**カー同好会** (女子)

For the team!

尚志コース 2年 櫻井 つかさ

私たち女子サッカー同好会は春に行われた高校総体で3年生が引退し、現在は1、2年生合わせて20人で活動を行っています。部員全員サッカー経験がなくゼロからのスタートの私たちは、声を掛け合い部員一人一人がチームのために何ができるのかを常に考えながら毎日練習しています。そして、サッカーは日常生活がグラウンドでのプレーに表れるので普段の生活から変えていくこと、挨拶や周りへの心遣い、サッカーができる環境に感謝し、日々練習に励んでいます。

「誰からも応援されるチーム」を大きな目標として個人の能力 向上だけでなく、サッカーを通して心身ともに成長していけるよ うこれからも努力していきます。



華道部

技術向上を目指して

特別志学コースType2 3年 丸山 京

私たち華道部は、17人で週一回の活動を大切にしながら一人 一人が技術の向上を目指して活動しています。

皆さんは「華道」と聞いてどんなイメージを持っていますか? 私は、最初はただお花を生けるだけだと思っていました。しか し、毎週違う花材に触れることによって季節を感じることがで き、お花を生けることを通して心穏やかに集中する時間を持つ ことができます。

華道部にとって発表の場である藤崎書道展や英智祭でのお花の展示という機会に、私たちの活動をたくさんの人に見ていただければ、とても嬉しいです。

これからも先生の指導の下、部員同士で高め合いながら楽し く活動していきたいと思います。



聖ウルスラ英智祭での作品



「藤崎書道展」での出展

陸上同好会

陸上同好会の活動について

尚志コース

1年 森田 優希

私たち陸上同好会は1年生のみの7人で活動しています。陸上 は個人種目のものが多く、それぞれの目標に向けて練習してい ます。そのなかで互いに競い合い、励ましあい、切磋琢磨しあい ながら活動しています。

陸上同好会は週5回の練習でそれぞれが大会で結果をのこせるように、自分自身の記録を破るために努力しています。また、土曜日は学校の持つグラウンドで練習をすることもあります。夏にはそこで合宿を行い秋の大会に向けて自分自身を追い込みます。

これからも互いに協力し合いながら、それぞれの目標のため に日々努力していきたいと思います。





第45回 全国中学校バドミントン大会【8月20日~23日 北海道釧路市湿原の風アリーナ釧路】

進優勝 男子 団体

(団体メンバー

[主将] 齋藤 晃輝(9年) 寺島 颯大(9年) 孝伸(9年) 佐藤 熊谷 翔(8年) 藤澤 佳史(8年) 覧村龍之介(8年) 大久保智也(7年)



大会を振り返って

中学校生活最後の全国大会で団体準優勝という結果をだすことが できました。この結果をだせたのはチームのみんなを始め、顧問の先生 方ももちろん、学校の先生、保護者の方々のご支援のおかげだと思っ ています。

準決勝ではチームがひとつになったことで勝つことができました。決 勝で勝てなかったことはとても悔しいですが、準優勝も素晴らしい成績 だと思っているので誇りに思いたいと思います。

高校ではより一層日々の練習を大切にし、インターハイ優勝を目標 に頑張っていきます。

中学男子主将 齋藤 晃輝

女子団体準優勝

(団体メンバー)

[主将] 植松 美帆(9年) 育帆(9年) 渍藤 彩音(9年) 加藤 佐藤 仁美(9年) 智加(8年) 櫻井 紀香(8年)

阿部



大会を振り返って

衣純(8年)

中学校生活最後の全国大会に出場して学んだことはたくさんありま した。その中でも一番大きかったことは、メンバーだけでなく応援してる 人も含め、チーム一丸となって戦えばどんな相手でも勝つ可能性があ るということです。上位者を見てみると本当にレベルの高い人達ばかり です。だからこそ、その中でとれた準優勝というのはウルスラという チームの団結力が発揮されたんだと思っています。

優勝をすることができなくて悔しいです。だから、高校では優勝でき るよう、日々の練習を大切に取り組んでいきたいと思います。

中学女子主将 植松 美帆

第66回全国高等学校バドミントン選手権大会《インターハイ》

【8月6日~11日 京都市西山公園体育館ほか】

男子 学校対抗 第3位

(団体メンバー

[主 将] 野村 拓海(3年) [マネージャー] 河原 樹(3年) 浅原 大輔(3年) 丸山 優斗(3年) 鈴木 朋弥(3年) 海老澤年幾(3年) 菲澤 智樹(2年) 洸(1年) 嶺岸



個人対抗男子 ダブルス 準優勝

野村 拓海(3年)組 浅原 大輔(3年)

大会を振り返って

ントン競技大会 李青春十逢日六十

野村・浅原 組 ご機嫌様でございます。男子バドミントン部は、8月6日から京都で開 催されたインターハイにおいて、創部9年目にして団体第3位、個人ダブ ルスで野村・浅原組が準優勝という戦績をおさめることができました。 自分たちの日頃の努力の成果を出すことができたのも、校長先生をはじ

高校男子主将 野村 拓海

女子 学校対抗 ベスト16

個人対抗女子 ダブルス 第3付

徳能あすか(2年) 組 保原 彩夏(2年)

個人対抗女子 ダブルス 第5位

清水 一希(3年)組 小原凜々子(2年)



徳能・保原 組

大会を振り返って

ご機嫌様でございます。女子バドミントン部です。私たちは8月6日か ら京都で行われたインターハイに出場してきました。結果は惜しくも団 体ベスト16、個人では清水・小原組がベスト8、徳能・保原組が第3位 でした。春の選抜で団体3位となり、自信をつけて、厳しい練習も仲間と 助け合いながら気持ちを一つにしてインターハイ優勝を目指してきま した。今年も優勝できませんでしたが、この思いを後輩に託し、ウルスラ 英智の伝統を引き継いでくれると信じています。そして主将を務めるこ とができたのも、校長先生をはじめ、顧問の先生方、多くの先生方や友 人、そして保護者の皆様に支えられてきたからです。たくさんの応援あ りがとうございました。

高校女子主将 齋藤 優衣

吹奏楽部

全日本吹奏楽コンクール 第58回宮城県大会

め、顧問の先生方やトレーナーの先生、多くの先生方や友人そして保護

者の皆様に支えられてきたからです。応援ありがとうございました。

金賞 第一位《海鋒義美賞》 同 東北大会金賞《第一位》

同 全国大会出場(於名古屋)

合唱部

第67回全日本合唱コンクール 宮城県大会

《県 代 表》 県 知 事 賞《 県 第 一 位 》

同 東北大会出場(於秋田)

グローバル社会で求められる人材育成



大切なこと

聖ウルスラ学院英智幼稚園 園長 佐取 美智子

毎朝、「おはようございます!」と、あちらこちらから聞こえてくる 元気な声。子どもたちの笑顔で、園舎内外が活気に満ちあふれま す。

この何気ない毎日の挨拶ですが、とても大切であることを子ども たちに伝えたいと、いつも思います。

「おはよう」の一言。でも心の中は"今日も一日楽しく過ごしましょう。よろしくね"と、相手を思いやる気持ちが込められています。そして、「ごめんなさい」"あなたに迷惑をかけてしまって…"。「さようなら」"お陰さまで楽しかったよ。また会いましょう…"等々。「ありがとう」はもちろんのこと、挨拶はどれも相手に対して思いやる気持ちから発する、心のこもったとても大切なコミュニケーションの一つです。

「自分を大切にし、他人をも大切にする」という本園の目指す子どもの姿です。

また、幼稚園では、感性豊かな子どもを育むために、リトミックでの身体表現や、さまざまな絵本を読み、言葉の美しさに触れるな

ど、多くの機会に自分の思いを、言葉や動作で伝えられるようにしています。子どもたちにとって、遊びは生活そのもの。遊びの中でたくさんの言葉や思いを知り、経験し、「仲よくする」とは、どのようなことなのかを、自然に理解し身につけていきます。幼稚園は、子どもたちが思う存分遊ぶ中、これから生きていく上で忘れてはならない大切なことを育み、成長の手助けをする場であると思います。

今年度から、「子ども・子育て支援制度」がスタートしました。どの幼稚園も、昨年は岐路に立たされましたが、結局多くの園が幼稚園としての使命を果たすべく、現行通りの幼稚園として今、歩んでいます(本園も現行通りの幼稚園)。この支援制度そのものは、現代の社会事情に合ったものではありますが、本当に子どもたちのことを考えているのだろうか…と、私は、心に疑問を持たずにいられません。子どもたちにとって何が一番大切か…。やはり家族の愛情が一番。愛情に満たされてこそ、子どもは安心して登園し、のびのびと園生活を送ることで健やかな成長が見られます。そして、幼稚園は、人的・物的に、より良い教育環境を展開し、充実させていく責任があります。元気で可愛らしい子どもたちの未来を考え、本園で行っている教育内容を、より良いものへと、いつも前向きに考えなければならない事を痛感いたします。

これからも、子どもと保護者、そして教職員で、一つの大きな 「わ」を大切に、歩み続けます。



21世紀っ子の教育

聖ウルスラ学院英智小・中学校 聖ウルスラ学院英智校高等学校

校長 伊藤 宣子

21世紀に生きるわたくしたち、そして21世紀に生まれた子どもたち。今、小・中学校9年生15歳が21世紀の幕開けの時に生命を授けられた子どもたちです。

「21世紀に生きる新資質」の育成と謳われた子どもたちの教育成果が問われ、「真の学ぶ力」(学力の3要素・「知識・技能」「思考力・表現力・判断力」「主体性・多様性・協同性」)の育成が新学習指導要領に示されました。その教育成果の検証の時として「2020夢ビジョン」が掲げられ、具体にはその教育成果が問われる高大接続の大学入試制度にみられる教育改革が動き出しています。知識基盤社会・イノベーション、ICT時代、グローバル社会を確実に時代は進化し続け加速化しいてます。この時代変化は産業構造を確実に変化させていくことは事実でしょう。15年前に叫ばれたことが今

確実に着実に始動しているのです。「人は時代の子です。」時代が大きく変化した1970年代・子どもたちの変化に注目された時代に、教育改革が叫ばれたことも事実です。9年前の2006年12月22日に教育基本法の改正され、教育の方向性が示され一大教育躍動が音を出し始めました。

この教育の躍動音をキャッチしつつ、学校改革を着実にかつエネルギッシュに行い続けたチーム・ウルスラ英智のこれまでの教育を、冷静に分析しつつさまざまの観点からの今後に生かし切る力をつけていきたいと思います。そして試練は、躍動の種と認識しつつ更なる教育使命を求めていきます。

「現在を思い、将来を慮るに、過去の歴史に発奮する者は勝利者 になれる。|

慶長の大津波の一大危機を乗り越えんとした東北の覇者・伊達政宗の心意気を思い、「めげず、あきらめず、果敢に挑戦するホモサピエンスであり続けたい」と壮大な志も、一粒の麦のように、できることから確実に自己肯定感の中に育み育てていきたいものであります。また歴史を繋ぐ一人として生きることの壮大なドラマを繰り広げていることを子どもたちが認識し、自己鍛錬に挑む子どもたちを育みたいと願っております。



聖ウルスラ学院英智音楽教室 ~豊かな心を育む音楽を~

聖ウルスラ学院英智音楽教室は、創設68年という長い年月、キリスト教精神を礎に、音楽を愛する 多くの皆様のご支援とご協力により支えられてま いりました。

小さなお子様から「大人のための教室」も充実 し、共に音楽を学ぶ楽しさを育むレッスンを行っ ております。



定期演奏会のお知らせ

と き/平成27年**11**月**1**日(日) 10:00~17:00 ところ/**仙台市戦災復興記念館**

λ場無料

どうぞ、 お誘い合わせてお越しください

同窓会だより

幼稚園

《集まりの日》

遠くに引越しても連絡を取り合い、6年後また会えることを楽しみに卒園していく子どもたち。毎年2月の第1土曜日に開催される「集まりの日」に、今年も82名の6年生が来てくれました。久しぶりに会う友達に、初めは恥ずかしそうでしたが、思い出話をしたり、一緒にゲームをしたりするうちにすっかりうちとけ、楽しいひと時を過ごし、帰る時には園舎から離れ難い様子も見られました。幼稚園時代に知らなくても、小、中学校と進学していった時、偶然に出会う「ウルスラ卒園」の絆で、親しくなることもあるようです。思い出は大切な宝物です。



平成20年度卒園の子どもたちが集まりました

小•中学校

小・中学校では、この春、8回生71名が母校を巣立ちました。この8年間で350名を超える同窓会員となりました。

ここ数年の同窓会入会式では、小学校同窓会長様、高等学校同窓会長様のご臨席のもと、同じ3月に卒業したばかりの高等学校の同窓生にもお越しいただき、後輩たちにお祝いのメッセージをいただいております。小・中学校の卒業生からみると3歳年上の先輩であり、共に一本杉キャンパスで過ごした仲間。その先輩が、壇上から自信と希望に満ちた表情で語る姿は、本当にきらきらと輝いて見えます。後輩たちは憧憬と尊敬の思いで先輩のことばを受けとめ、志を新たに、次の日の卒業式を迎えています。このように若い同窓会員のエネルギーは、これからも後輩たちに受け継がれることでしょう。

同窓会員の皆様は、学業に仕事に、ますます忙しい日々を送られていらっしゃると思いますが、どうぞ懐かしい学び舎を訪ねていただき、先生方と旧交を深めていただければと思います。今後の同窓生の今後のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

(同窓会事務局より)

高等学校

《同窓会の昨今》

今年は第54回生を新会員として迎 え入れました。同窓会会員は13,232 人を数えます。入会式、総会、バザー 震災復興活動、会報作成の活動の 他、今年は隔年開催の「帰天された 恩師と同窓生のための追悼ミサ」を 行います。小・中学校同窓会との合 同開催も3回目となります。恒例にな りました合唱部OBによるミサ中の 合唱も予定しています。また、「聖ウル スラ学院英智 ローマ教皇謁見使節 団派遣事業」の一行に同窓会からも 最も若い同窓生が代表として参加い たします。若い力がバチカンより「明 日への希望」を持ち帰られますことを 期待しております。

会長 今野 麻里

卒業生からのメッセージ

私は1959年(昭和34)小学校卒業の4回生です。幼稚園、小学校と8年間ウルスラにお世話になりました。56年前には想像もつかないほど「聖ウルスラ学院英智」が発展しまして、驚きと嬉しさと誇りを感じています。現在も愛着を持ち続け友人と良い思い出を胸に生きています。

それは、私の家と聖ウルスラが不思議なご縁で繋がりがあるからです。

私の先祖は仙台藩祖伊達政宗公が1613年(慶長18年)に遠くメキシコ、スペイン、ローマに派遣した慶長遣欧使節の大使に任命された支倉常長です。常長はスペインで洗礼を受けキリスト教徒になりました。私の祖父母も洗礼を受けています。自宅が学校に近いからではなく両親は少々無理をしてでも子供3人ウルスラに通わせてくれたことを、今でも有難く感謝しています。

また、一本杉にあった当時の家庭学校は伊達家より旧伊達伯爵 邸を譲渡され開校しました。子供心に庭園もお屋敷も広くすごい と感じたことを覚えています。

そして、仙台伊達家十八代当主伊達泰宗様は聖ウルスラ学院の「名誉顧問」に就任なされております。さらには礼法「仙台藩作法」を教導なされております。

仙台藩志会という会があります。「志」を同じくする人々の会で、 伊達泰宗御当主は「総裁」であらせられ、現在私は副会長の職にあ ります。

昨年7月、宮城県は慶長遺欧使節出帆400年記念事業の一環として、県内高校生を平成青少年遺欧使節としてスペインに派遣しました。私は名誉にも常長子孫として団長をおおせつかりました。 団員にはなんと母校ウルスラ英智の菅原さんと豊川さんが選出されていました。卒業生としてとても親しみを感じ嬉しく思いました。

聖ウルスラ英智を通しまして、めぐり合わせ深いご縁を感じました。

今年6月には4回生の恩師を囲む同期会を催しました。星組は苫米地好道先生と5名、花組は伊藤邦先生と6名が参加し、小学校時代に戻り、思い出話しにともに笑い語り合いました。

聖ウルスラ英智では聖アンジェラの教えを守りつつ発展し、現在は梶田叡一理事長、伊藤宣子校長、教職員が一丸となりグローバル化教育を推進していると聞いております。現在、「世界全ての人々が平和に共生できる社会づくり」を目指す人材育成が大切であると言われています。

聖ウルスラ修道会のシスターの方々が16世紀以降に迫害などに もめげず、キリスト教布教と平和と平等と教育の為に世界各地へ 行き、日本にも来て宣教に身を捧げました。

400年前の伊達政宗公の思いも常長使節一行の海外での高評価 も広い意味で、国際化、グローバル化に貢献したことと思います。

また、グローバル化は海外だけではなく、国内でもでき、例えば 昨今多くの国から日本に来訪者があります。留学、ビジネス、観光、 会議、交流、事業を通じて、2020年には東京オリンピックを通じて 国際交流がなされるでしょう。

聖ウルスラ学院英智の皆さん、あの東日本大震災、大津波の時、世界から賞賛された日本の国民性、資質に誇りを持ち、自分を育ててくれた歴史、文化、宗教を充分に理解すると共に、相手の国の歴史、文化、宗教をも理解する事が大切だと思います。共通語の英語はもちろん、現地語の語学でスピーチも大切にしたいものです。

そして、地球規模での創造性、発想力を十分に発揮して皆さんの将来に繋げてください。卒業生として、聖ウルスラ学院英智のますますのご発展と生徒の皆さんの健康と幸せと未来を心からお祈り申し上げます。

聖ウルスラ学院英智の教育に寄せて

幼稚園 母の会

会長 熊谷美砂子

東日本大震災の時、1歳になろうとしていた娘も、兄と同じ聖ウルスラ学院英智幼稚園に通い始め、今年年長となりました。

覚えていないであろう震災を、メディア等の影響で、小さいながらも何か心にトラウマのようなものを持ってしまうのではと危惧しておりましたが、入園してからの娘はそんな心配をよそにすくすく育ちました。そして今では自ら震災を振り返り、被災された方たちの幸福を祈ることができるまでに成長しています。

創立者聖アンジェラの精神「愛の心」をいかし、他者を大切にできる人づくりを目指していくという幼稚園の教育理念のもとに、佐取園長先生をはじめ、先生方の愛情深く慈しみあふれる関わりと、たゆまぬ努力のおかげでこのように心豊かにすくすくと成長できたのだと感謝しております。

幼稚園と共にある母の会では、子どもたちが心豊かにのびのび と楽しく園生活が送れるように先生方と協力して活動しておりま す。これからも子どもたちの為に何ができるのかを考え、共に学び 合いながら活動して参りたいと思っております。

この園生活が、子どもたちにとっても親にとっても宝物になるよう大切に過ごしていきたいと思います。

小·中学校 高等学校 父母教師会

会長 渡邊 裕介

百の事を行って一つだけ満足のいく結果 を得たとしたのならば、はたしてこれは「成功」 と言うべきでしょうか?それとも「失敗」と言うべ

きでしょうか? 一つに希望を持つか、九十九に失望するか、目の前の結果をどう捉えるのかは人それぞれの考え方次第なのかも知れません。しかし、一つの成功の為に他の九十九と言う「糧」が有ったとしたのならば、あながち「失敗」とは言い切れず、むしろ「成功」だったと考える事も出来ると思います。

価値観の多様化と言われて入しい時代です。これからの未来を生きる子どもたちにどれだけいろいろな体験をさせられるか?併せてどれだけ「失敗」の体験をさせられるか?が親としての「教え」ではないでしょうか?その中からでしか「どうしたら成功するか?」を学び取る事は出来ません。エジソンの格言にも「これは失敗ではない。うまく出来なかった方法を見つけただけだ。失敗をすればするほど我々は成功に近づいている」とあります。

親としては子どもたちに総じて「うまくいく人生」を歩んで欲しいと思いがちですが、子どもたちにはこれを一つの指針として自立した人を目指して欲しいと切に願います。その原点がここ「ウルスラ 英智」には有るのですから。

聖ウルスラ学院英智小・中学校 教育研究開発学校(教育課程特例校)

第11回 英智公開研究会(第一次ご案内)

9月1日現在

【研究主題】課題解決に向けて主体的・協働的に学ぶ力の育成 一言語活動の充実を図る一

- ◎日 時:平成27年12月5日(土) 9:00~16:30(受付8:00~)
- ◎会 場:聖ウルスラ学院英智小・中学校 一本杉キャンパス3号館
- ◎主 催:聖ウルスラ学院英智小・中学校
- ◎後 援:宮城県・宮城県教育委員会・仙台市教育委員会
- ◎参加費:一般/2,000円(資料代を含む) 学生/無料 <別途ご希望により、お弁当・お茶 計1,000円を申し受けます>

プログラム -

【受 付】 時間/8:00~ 会場/1階エントランスホール

【オープニングセレモニー】 時間/9:00~10:15 会場/3号館講堂

○和太鼓演奏 ○すずめ踊り演舞

◎挨拶 校長 伊藤 宣子

◎児童・生徒によるポスターセッション・プレゼンテーション

【授業1】 時間/10:30~11:20 会場/各教室

◎国語·言語技術(T9)、英語(F4)、社会(S6)、理科(S5)、算数(F4)

【授業2】 時間/11:30~12:20 会場/各数室

◎国語·言語技術(S5)、英語(S7)、理科(T8)、数学(S7)、数学(高2)

【昼 食】 時間/12:20~13:00 会場/各教室 (お弁当引き替えは1階エントランスホールです) 【分科会】 時間/13:10~14:10 会場/各教室

◎各分野別教科分科会

◎授業研究会

【全体会】 時間/14:20~14:50 会場/3号館講堂

◎研究主任 渡部久美子

◎価値と規範主任 山口 葉子

【講演会】 時間/14:50~16:00 会場/3号館講堂

講師/文部科学省視学官田村 学氏

第10回英智公開研究会

【まとめ】 時間/16:00~16:25 会場/3号館講堂

◎理事長 梶田 叡一



創設「グローバル教育基金」で寄附のお願い

日頃より本学院の教育活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。私学である本学院における財政基盤は 在校生の授業料、国・県からの補助金、賛同頂ける方々からの寄附金により成り立っております。

本学院に思いを寄せてくださる企業・法人・個人の皆様からのご寄附の使途は、奨学金制度の充実や施設整備の拡充等の教育活動に当てられます。昨今の厳しい社会経済状況の中、誠に恐縮ではございますが、何卒ご支援、ご協力賜りますようよろしくお願い申し上げます。

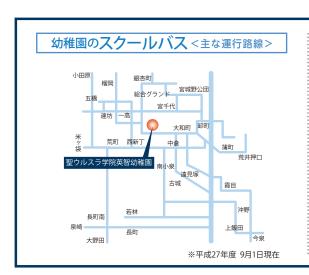
◆お手続き・お問合せは、法人事務局 TEL.022-286-5935まで

平成28年度 園児・児童・生徒募集要項の概要

	校種		募集定員等		出願日/出願期間			試験日	試験内容	合格発表	体験入園/オープンスクール等
	幼稚園		3年保育/男女 65名 2年保育/男女 30名 1年保育/若干名		11月1日(日)			※詳しくは要項・願書をご覧ください 要項・願書配布期間…10月1日(木)~10月31日(土)※13:00迄			<公開保育>10月9日(金) <体験入園>10月17日(土)
	小. 古学长		小学校課程 新1年生 (F1年生) 男女 50名		前期		11月2日(月)~ 11月14日(土)	11月21日(土)	運動面・知能面・ 生活面の検査 面接(本人と保護者) 11月22日(日)	11月22日(日)	<学校教育説明会>
	小•中学校				後期		11月30日(月)~ 12月12日(土) ^{日祝を除く}	12月19日(土)		1 9月12日(土)14:00~ 2 10月3日(土)14:00~	
教育特	指定 教育課程			中学校課程	前期	奨学生 一般	12月1日(火)~ 12月12日(土) 日紀を除く	1月6日(水)	学力検査(国語・算数) 面接(本人と保護者)	1月7日(木)	<新中学1年生対象
	特例校研究開発学校	护门		新1年生 (S7年生) 男女 70名	後期	奨学生 一般	1月4日(月)~ 1月9日(土)	1月13日(水)	面接(本人と保護者) 学力検査(国語・算数	1月14日(木)	オープンスクール> 10月17日(土) 13:30~
	<u> </u>				公立中高一貫校を受験される方にお勧めの入試です ・社会・理科)					13.30	
				特別志学コース <type1> 男女</type1>	奨学生推薦 推薦		12月24日(木)~ 1月8日(金)	1月13日(水)	奨学生資格取得試験(国語・英語・数学・社会・理科 各30分) 面接(本人と保護者) ※出願条件に規定あり	1月14日(木)	- <オープンスクール>
	教	女	1	入学者の約20%		-般 丝生・専願)	12月24日(木)~ 1月15日(金)	A _{日程} /1月27日(水) B _{日程} /1月29日(金)	学力試験(国語・数学・英語) 面接(本人のみ)	2月3日(水)	10月17日(土)
	大学 (A)	拉	牟	<type2></type2>		生推薦	12月24日(木)~ 1月8日(金)	1月13日(水)	作文、面接(本人と保護者) ※出願条件に規定あり	1月14日(木)	13.30
	高等学校 🎁		2 4 0 名			−般 丝・専願)	12月24日(木)~ 1月15日(金)	A _{日程} /1月27日(水) B _{日程} /1月29日(金)	学力試験(国語・数学・英語) 面接(本人のみ)	2月3日(水)	<特別志学コース 見学会・相談会> ●11月7日(土)13:30~ ●11月14日(土)13:30~
				尚 志 コ ー ス 男女 ※男子:奨学生推薦10名.他 入学者の約45%	奨学生推薦 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		12月24日(木)~ 1月8日(金)	1月13日(水)	面接(本人と保護者) ※出願条件に規定あり 面接(本人のみの個人面接)	1月14日(木)	
						-般 华生·専願)	12月24日(木)~ 1月15日(金)	A _{日程} /1月27日(水) B _{日程} /1月29日(金)	学力試験(国語・数学・英語) 面接(本人のみ)	2月3日(水)	

☆高等学校:一般入試において男子も尚志コースへスライド合格判定をしています。

ただし、尚志コースに従来から設置しております1年次の大学進学選抜クラスに所属できる力が認められることを基準に男子の尚志コーススライド合格を総合判定します。



小・中学校/高等学校のスクールバス

遠方から通う児童・生徒の安全性と利便性を考慮し 市内及び近郊へ各コースを設けて通学をサポート。

<運行コース>

- ◆明石台・泉中央・仙台駅コース
- ◆鶴ヶ谷・幸町コース
- ◆八木山・富沢・西多賀コース
- ◆利府・岩切コース
- ◆紫山・寺岡コース
- ◆名取・長町コース ※平成27年度 9月1日現在

※連行コースにより定員となりました場合は、小・中学校低学年優先となります。
※上記連行コースは利用者の人数・希望により変更される場合があります。

地下鉄東西線開通で、 通学がとても便利になります! 【薬師堂駅】から徒歩わずか10分





●仙台市営地下鉄

薬師堂駅下車 徒歩10分 地下鉄南北線 河原町駅下車 徒歩25分

●仙台市営バス

仙台駅西口バスプール 市営バス6番のりば (地下鉄五橋駅から乗り継ぎも可) ※地下鉄開業後は仙台市交通局の 情報をご覧ください。

.....

●JR仙石線 宮城野原駅下車 徒歩25分

●自転車通学路

学校法人 聖ウルスラ学院

SUG英智

http://www.st-ursula.ac.jp/

聖ウルスラ学院

英智幼稚園 〒984-0047 仙台市若林区木/下1丁目25番25号 TEL.022-293-4024 FAX.022-293-4014

央督小・中子校 TEL.022-286-6461(代) FAX.022-286-6431 〒984-0828 仙台市若林区一本杉町1番2号

英智高等学校 TEL.022-286-3557(代) FAX.022-286-7279

法 人 事 務 局 〒984-0828 仙台市若林区一本杉町1番2号 TEL.022-286-5935 FAX.022-286-6334

聖ウルスラ学院報 英智報 Vol.36

[編 集 委 員] 委員長/髙橋 直見(法人事務局長) 幼稚園/山下智佳子・沢田 智恵

高等学校/吉井 恭子・伊勢 美樹・遠藤 あゆみ

[編集事務局] 今野正則(法人事務局次長)・庄司良祐 [編集協力・製本] 株式会社アド東北プロ